

Compass を使った3年間の指導

——どのような力を身につけさせるか

田中 知聡



◆3年間でどのような力を身につけさせたいか

Compass English Communication I・II・III は、英語で情報を得る力や情報を発信する力を着実に身につけさせる教科書です。生徒とコミュニケーションをしながら授業を展開するのが楽しくなる題材で、言語活動も活用しやすく工夫されています。それぞれの学校の教育課程に応じて「Iを全員履修、IIを選択履修」「I・IIを全員履修、IIIを選択履修」「I～IIIを全員履修」などの履修パターンが考えられます。学校の教育目標や生徒の実態に応じて、3年間を通して生徒に「どのような力をつけさせたいか」という学習到達目標を具体的に考えることが求められています。

3年間を見通した計画を立てる際には、教科書の構成やそれぞれのレッスンの特長を学習到達目標と結びつけて計画を立てると効果的です。教科書 *Compass I・II・III* を使ってどのような力を身につけさせることができるのか、授業の実践例や学習到達目標の例を紹介したいと思います。

◆高校英語の基礎をしっかりと固める

— *Compass I*

高校に入学してきた生徒が、徐々に高校の授業に馴染めるような内容から始まっています。英文も難しすぎず、英語で行う授業にも慣れさせながら進めることができるでしょう。

目標を設定する際には、それぞれのレッスンの特長を生かして、例えば「日本のゆかたや着物についての会話を聞き、概要を把握することができ

る」(Lesson 3)、「辞書を活用しながら物語文を読んで出来事を正しく把握することができる」(Lesson 4)、「色と生活のかかわりに関する説明文を繰り返して聞いて、その内容を理解することができる」(Lesson 5)などを計画することができます。目標を示してから授業を行えば、生徒も目的意識を持って授業に取り組めます。

教科書見開きの右ページにある“Use it!”や課末の“Enjoy communication”などは、ペアやグループでの活動やパフォーマンス評価、ALTとのTTでも活用することができます。平成25年度に私の勤務校では、*Compass I*を使用した授業において、年間4回のパフォーマンステストを実施し、評価にも組み入れました。レッスンの内容と実施時期を考慮して、「3つ以上の情報をもとにして自己紹介をすることができる」(Lesson 1)、「論理展開を意識して暗唱することができる」(Lesson 3)、「空港や税関での場面を設定し、聞かれたことに対して即興で答えることができる」(Lesson 5)などの目標を立ててパフォーマンステストを実施しました。生徒はととてもよく取り組み、コミュニケーションに対する興味・関心を高めることができました。

教科書の内容も、論説文、会話文、物語文とさまざまなタイプの英文で少しずつ難易度を上げていくため、生徒は徐々に長めの英文にも対応する力をつけることができます。また、科学的な視点や文化的な視点など、生徒の視野も広げながら「コミュニケーション英語II」へとつなげていくことができます。

◆広く社会に目を向けて英語力をつける

—Compass II

「コミュニケーション英語II」ではさらに語彙力を高め、まとまりのある英文を「聞く」「読む」ことに慣れさせていきます。「会話の流れやつながりを理解し、メッセージを的確に把握することができる」(Lesson 2)、「論理展開を把握しながら睡眠のメカニズムを理解し、要約することができる」(Lesson 7)のように、「聞くこと」を中心に展開したり、「読むこと」を中心に展開したりすることができます。新出単語も増えてくるので、予習として辞書で引かせる、推測させる、あらかじめ与える、ペアやグループで協力して調べさせるなど、学校の目標とする生徒像や生徒の実態に合わせて対応します。また、「話すこと」や「書くこと」の表現活動に焦点を当てて授業を進めていくことも可能です。相手とのやりとりを通して英語を使うタスク活動が、課末の“Enjoy communication”に紹介されているので授業中の活動やテストに活用することができます。パフォーマンステストとして、レッスンの内容に関連させて「尊敬する人についてのスピーチをすることができる」(Lesson 1)、「インタビューをして情報を収集し、その結果をグラフにまとめて発表することができる」(Lesson 7)などを計画し、4技能をバランスよく高めていく指導をすることができます。

◆自分の力で情報をやりとりする力を育成する

—Compass III

高校3年間の集大成となる「コミュニケーション英語III」の授業では、自分の力で積極的に英語を聞いたり読んだりする理解力を身につけさせることができます。

(I) 応用するための基礎を固める Unit 1

Unit 1 は、次のようにステップを踏みながら

reading strategies を育成できるように構成されています。

① 読む前に予測する力を養う

- ・写真、絵、図表から内容を予測する力
- ・タイトルや見出しから内容を予測する力

私たちが英字新聞を読む場合、写真や見出しからおよその内容を予測して読むということはよくあることです。グラフや数字があれば、そこに注目することも重要なスキルです。Lesson 1 では生徒が持っている背景知識やさっと見て得られる情報を利用して推測する力を身につけさせます。

② パラグラフの構成を意識する力を養う

- ・パラグラフの main idea を捉える力
- ・トピック・センテンスと支持文を捉える力

トピック・センテンスと支持文の関係を意識できるかどうかは、論説文を読む上で最も重要なスキルの1つです。このことを学ばせるには、論理展開がしっかりとした良質の英文を生徒に示すことが重要です。Lesson 2 では、生徒にパラグラフについて理解させ、論理的に読む力を身につけさせます。

③ 文章全体の流れをつかむ力を養う

- ・序論で主題や主張を捉える力
- ・本論で具体的に論理展開を捉える力
- ・結論で主張を捉える力

長い英文になればなるほど、生徒は読むのをあきらめてしまうことがあります。しかし、文章構成の特徴を知っておけば、要点をつかみながら読み進めることができます。Lesson 3 では序論、本論、結論の捉え方を身につけさせます。

④ 英文のタイプに応じて読む力を養う

- ・論説文を論理的に読む力
(要旨・パラグラフ・筆者の考えなど)
- ・物語文を展開に注意しながら読む力
(登場人物・出来事・心情など)

論説文には論説文の、物語文には物語文の読み方のコツがあります。その読み方のコツを知らない生徒と、知っている生徒では、読んで理解したり考えたりできる内容がずいぶんと異なってきます。Lesson 4～6では英文のタイプに応じて読むコツを身につけさせます。また、Lesson 7では指示語を捉えながら読む力を身につけさせます。

⑤ 主体的に読む力を養う

- ・メッセージを受け取る力
- ・自分で考える力

高校生が例えば「自然界の生物の構造とテクノロジー」についての英文を読んだときに、本当の意味で「読めた」と言えるのはどのような状態を指すのでしょうか。「コミュニケーション能力」という観点からみると、筆者のメッセージをしっかりと受けとめて、そのメッセージをもとに考え、私たちの生活や生き方に結びつけ、自分の意見を持つことが重要です。そのためには、「興味を持って読む」「筆者の立場になって考えて読む」「現代社会や国際問題と絡めて読む」「ここから学べることは何かを考えて、考えたことを発信できるように読む」といった主体的な読みをすることが必要になります。Lesson 8では生徒に英文と自己とを結びつける力を身につけさせます。

このUnit 1を中心に授業を展開して基礎をおさえていくのもよいですし、Unit 1で要点をおさえた上で、次のUnit 2を中心にじっくりと力をつけさせるのもよいと思います。

(2) 十分な語彙力と読む力を育成する Unit 2

Unit 2ではさまざまなトピックについて、Unit 1で学んだreading strategiesを応用させていくことができる構成になっています。それぞれのレッスンの右側のページにComprehensionとして設問が、また課末にはReviewとして内容把握問題があります。英文の難易度も徐々に上が

ってくるので、学校の実態に応じてさまざまな活用の方法が考えられると思います。

例えば、「まとまりのある文章を短時間で読み、概要を把握することができる」ことを目標に設定し、レッスン全体を通して速読させたり、「論説文の特徴を理解し、内容を正しく理解することができる」ことを目標にして論理展開に焦点を当てた指導をしたり、「まとまりのある英文を聞き、出来事の順序や登場人物の心情を把握することができる」ことを目標にしてリスニングに焦点を当てて扱ったりすることができます。

また、課末のPhrases & Structuresで扱われている構文に着目させて、さらに文法力や表現力を育成したり、Further Practiceではさらに高い語彙力、リスニング力、表現力を育成したりすることも可能です。

また、「理解した内容をもとにスピーチをすることができる」「ディベートをして自分の意見を伝えることができる」等のパフォーマンス課題やタスク活動につなげると、さらに高いコミュニケーション能力が育成できると思います。

(3) 大学や社会への橋渡しとなる Unit 3

Unit 3の内容は、日常生活で読むような雑誌や、専門誌などで目にする文章が扱われています。笑いの効果、スープの魅力、モネの絵と日本美術、雪の結晶など、知的好奇心をくすぐる内容になっています。大学に進学した後や、社会に出た後も、英文に触れて情報を得たり発信したりすることができる力を生徒に身につけていてもらいたいものです。そのような姿を思い描きながら、ALTとのTTで読み聞かせをしたり、音読の練習に用いたりするのも楽しいのではないのでしょうか。

(たなか ちさと・山梨県立甲府城西高等学校教諭)